

第4回幸せになるための教育を実現する会議 要旨録

日 時	令和4年8月3日（水）午後3時～午後5時
出席委員	神谷、鈴木、大崎、曾根、三浦
そ の 他	市長、企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長、企画課副主幹

【本日の会議の POINT】

- 市長と教育委員会が協議する場である総合教育会議が開催される9月28日までに、この会議として提言が行えると良い。
- 提言には、「幸せ」をキーワードとした取組が学校現場で展開されること、その取組のための既存業務の負担軽減が必要である。
- 負担軽減にあたってはアンケート結果の更なる分析、現場への聞き取り調査などを実施し、効果的な取組を検討する。

⇒今までの議論を集約した文章を委員長が作成し、提言につなげていく。

【意見】

- ・教員アンケートの結果では、幸せになるための教育について実施していることや実施したいことがあるとの回答が7割程度であったのは予想よりも高く、期待できる。
- ・アンケート結果では多忙感が年代によって差があることが分かった。特に30歳代は高い。
- ・この会議での「幸せ」とアンケート結果での「幸せ」では意味が異なる可能性があるため、この会議でいう「幸せ」をしっかりと教員に伝えていく必要がある。
- ・学校教育現場の中で「幸せになる」ことについて、継続して考える機会を設けられると良いのではない。
- ・学校教育現場で新しい取り組みを進めるためには、教員の負担軽減は必要である。